

令和6年度第4回

隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年9月30日(月) 13時30分～15時00分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席者

1号委員	角脇 一夫	富田 信吾
2号委員	吉田 輝美	
3号委員	池田 明生	吉崎英一郎
4号委員	常角 辰夫	佐藤 格丈
	石田 千恵	

【事務局】

総務学校教育課長	金井 和昭
総務学校教育課総務係 係長	大上 達也
総務学校教育課総務係 企画幹	村尾 駿

4. 欠席者 2号委員 吉山 明利

5. 報告事項 前回会議録の確認

6. 会議の経過 別紙のとおり
議録作成者 総務学校教育課 総務係 大上達也

別 紙（会議の経過）

【事務局】開会前に、出席者の確認と資料の確認をさせていただきます。少し前後しますが、前回会議録の確認のところまで事務局の方で進めさせていただきます。レジメの裏面をめくっていただければと思います。本日欠席のご連絡をいただいているのは、3番の吉山委員が都合により欠席されるとのことです。その他の委員の方は皆さんご出席いただいております。事務局からは金井課長以下3名が出席しています。資料の確認ですが、本日資料を用意しておりません。レジメのみとなります。事前に会議録を郵送しておりますので、ご確認いただいているかと思います。引き続き、前回会議録の確認ですが、事前に送付させていただいた際に、修正点があればご連絡くださいとご案内しておりましたが、今日現在のところ、特に連絡はありませんでした。よろしいでしょうか。

【各委員】特に意見なし。

【事務局】では、委員長ご挨拶をお願いします。

1. 委員長あいさつ

【委員長】今日は第4回の検討委員会です。皆様、大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。初めに、前回までの内容についてまとめてみたいと思いますが、若干時間をいただいでよろしいでしょうか。

それでは、前回までの内容を概略でまとめた上で、話し合いをしたいと思います。まず、この隠岐の島町立小・中学校のあり方に関する検討委員会の設置目的ですが、隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会設置要綱第2条に記載してありますが、隠岐の島町立小中学校の適正な規模および配置について調査検討することを目指して設置されました。それに基づき、望ましい学校教育環境の方針を作成するのが私たちの役割です。それを念頭に、前回の第3回の検討委員会では、小中学校の規模を考える上でまず基本に置きたいことは、隠岐の子供たちにどんなふうに育てほしいかという、目指す子供像を共通理解することでした。そして、その子供像を実現するために、どのような規模が望ましいかを話し合いました。

第3回検討委員会では以下の5点が設定されました。

『自ら学び、学力を身につける』 学校の一番の使命は、子供たちに知識、理解、応用力、表現力などを身につけさせることです。

『未来をたくましく生きる』 各小中学校の教育目標にもあるように、たくましく育つことを重視しています。先生方も同様の願いを持っています。

『自分も友達も大切に作る』 人権教育の一環として、自分や友達の基本的人権を守り、お互いを大切にすることです。自分を大切にできないと、友達も大切にできないこととなります。

『夢に向かって努力する』 特に中学生に対して、勉強の重要性を理解させ、自分の夢を叶えるためには勉強が必要であることを教える取り組みです。

『自分の考えを自分の言葉で表現する』 委員から提案されたこちらは、前述の目指す子供像の基礎的な力となります。自分の考えを自分の言葉で表現できる力を育てることが重要です。

この5点を基に、このような子供たちを育てるためには、学校の規模や教育環境がどのようであるべきかを話し合いました。まず、1学級当たりの適正な児童生徒数について議論しました。学校の教育環境は、大きく分けて物的環境と人的環境があります。物的環境には、校舎、体育館、校庭などの「箱物」と、勉強に使うタブレットやパソコン、音楽で使う楽器などがあります。これらは市町村が設置・管理するものです。学校の設置者は町であることを改めて確認しておきます。人的環境には、教職員と児童生徒が含まれます。教職員の配置や給与、採用は県の教育委員会が行います。教員の人事権も県にあります。市町村の役割としては、子供たちが協力し合い、豊かな人間性を育むための環境を整えることです。

前回の検討委員会では、小学校の1学級当たりの児童数について、20人以上が適正であるという結論が出ました。今日は中学校の生徒数について話し合いを行います。1学級当たりの生徒数について、現行は10人以上ですが、15人以上、20人以上、25人以上の案があります。中学生の学校生活を考えながら、どのくらいが望ましいかご意見をお願いします。

2. 協議事項 1学級あたりの適正な児童・生徒数について

【委員長】 それでは本日の協議事項『中学校の1学級当たりの生徒数』ですが、第3回検討委員会のときにお配りした表を参考に、現行は10人以上ですが、中学生の学校生活を考えながら、どのくらいが望ましいか。ご意見をお願いしたいと思います。

【委員】 私は20人から25人くらいがベストだと思います。グループ活動や集団の活動において、人数が多すぎず少なすぎず、適度な規模であることが重要です。例えば、20人であれば4つのグループができますし、様々な意見が出やすくなります。人数が少ないと、意見が偏りがちです。大規模な学校では、学年を超えた交流や切磋琢磨があり、それもまた重要です。私の経験では、30人から35人でも良いと思いますが、各学校の実情に応じて適正な人数を設定することが大切です。揉まれるという経験もできるので、理想としては20人から25人が良いと思います。

【委員長】 ご意見ありがとうございました。今の意見を踏まえると、1学級に20人から25人がいれば、いろんな話し合いや集団活動、グループ活動ができ、子供たちも幅広い考え方に触れられると思います。他の委員にも意見を聞いてみましょう。

【委員】 ある程度の人数がいると、いろんな交流ができます。小学校では3クラス、中学校でも4クラスありましたので、クラス替えの楽しみもありました。その中で新しい仲間ができ、意見を交わすこともありました。

また、小さな島の小学校では、西郷中学校は西郷小学校、五箇中は五箇小、都万中は都万小、西郷南中は、磯・中条・有木・北小学校の児童が基本的には進学するのですかね。限られた環境での複数のクラスがあると、いろんな活動ができるようになります。これにより、子供たちはお互いに協力し合い、さまざまな経験を積むことができます。

【委員長】他委員の中学校はどちらで何人いましたか。

【委員】同級生は22人いました。

【事務長】あなたはどうか。

【委員】28人です。

【委員】44人でした。

【委員】18人でした。部活動も、私の時は男子がバスケットボールで、女子は無かった。その後、集団の部活は難しく、ソフトテニス部に変更となった。今、中体連はテニスが一番多いのかな。やっぱり小規模が多いので、そうなりがちだと思います。部活動を選択できる状況があるのがいいのかなと思う。それから、必ずしも運動がみんな得意な方ばかりじゃないとすれば、文化部が一つぐらいあるような、今の西郷中学校の状態はベストだと思いますね。

【委員】24人がいいです。細かいですが、このぐらいの人数がいれば多様な考えを聞くことができやすいですし、グループ分けチーム分けでも、その内容によってより多くの選択肢があるからです。

【委員】今、最大何人までだったら1クラスですか。

【事務局】中学校、私の資料でいくと、令和2年度から島根県がその基準を設けた数字になりが、中学校の1年生が35人です。2年生、3年生が38人となっています。

【委員】なぜ1年生と他学年は人数が違うのですか。

【委員長】島根県の場合、中学校の1年生は35人が上限で、36人になるとクラスが追加されます。2年生と3年生は38人が上限です。1年生の上限が少ないのは、小学校から中学校に上がる際の適応を考慮しているからだだと思います。

【委員】小学校はどうか。

【事務局】小学校1年生は、30人。2年生は32人、3年生以上が35人となっています。

【副委員長】私たちのときは2クラスが1クラスになり、1年生から3年まで同じ担任の先生と過ごしました。3年間変化がなく、面白くないと感じることもありました。卒業して高校に上がるとき、大きな学校に適応するのが難しかったです。これからの子供たちが社会に出て生きていくためには、社会性を身につけることが大切です。小さい頃から多様な考え方に触れる中で、たくさんさんのクラスの中で人間関係を築けるようになるべきです。クラス替えができるような人数

が必要だと思えます。

【委員長】今、資料をお配りします。令和6年度、5年後、10年後の各中学校の生徒数をまとめたものです。令和6年度の1年生は30人が上限で、2年生が35人、3年生が38人です。異動があるかもしれませんが、これが今年度の状況です。例えば、西郷中学校では1年生が43人、2年生が50人、3年生が50人で、すべて2クラスになります。西郷南中では1年生が37人で2クラス、2年生が24人、3年生が31人で各1クラスとなります。

5年後の状況を見てみると、西中はすべて2クラス、西郷南中はすべて1クラスになります。

10年後は、西郷中学校で1年生が38人で2クラス、2年生が2クラス、3年生が1クラスになります。これらを踏まえて、次回どうするかについて皆さんのご意見を伺いたいと思えます。特に五箇中や都万中の生徒数の激減について考える必要があります。

今日のところは、中学校の1学級当たりの人数について協議していきますが、今のところ20人から25人が望ましいとの意見が多いです。特に異論がなければ、小学校と同じように1学級の生徒数を20人以上ということで検討委員会として設定しておきたいと思えますがいかがでしょうか。

【委員】20人というのに特に意見はないが、最初に言いますけど、人数何人がいいのかよくわからないんです。答えが出なかった。ただ小学校と一緒にいうよりは、中学校の方が1クラスの人数が欲しいと思っています。というのも、やっぱり部活です。今現状見てて小さい学校でも、部活が結構複数あったりする状態なんです。それがばらけていく、これはもう自分の趣味の範囲だと思えますので。施行規則にある41条に40人って謳ってるんです。これが島根県で35人、38人になるってちょっと理由がわかりませんが、要は施行規則に記載されている上限の人数ほど1学級の人数が欲しいのではないかと逆に思うんですよ。もっと小学校の規模よりも大きい方がいいんじゃないかって僕は思えます。30人がいいのが40人とか25人がいいのか、それはちょっと答えが自分の中では出ませんが、小学校よりは大きい方がいいんじゃないか。

【委員長】私もそのことを考えたんです。中学校の場合は1学年で考えたらいいことで、そうすると、1学年の設定が30人できるんです。1学級だと20人欲しいんだけど、1学級という学級単位で考えないで、1学年が30人。そうすると、3学年で90から100人の学校ができる。そういう考えて特に学級の人数にこだわらなくても、小学校1学級当たり20人欲しいというもう中学校もうちょっと大きい方がいいことはないかということになれば、学年あたりで設定してもらい、検討委員会として、無理に学級の人数で設定しなくても良いのかもしれない。

【委員】さっきいただいた生徒数の推移ですけど、これも結局、部活をしたいからと校区外にでてるんですよ。もう実際に出てます。そういった意味合いもあって、施行規則に則った方がいいんじゃないかなというのを言わせていただきました。

【委員】施行規則でいう人数は、多分これ、上限だと思うんですよ。38人、35人っていうのは。だから38人が1学級はベストですよという数字ではなくて、最高で38人。それ以上超えたら2クラスになりますよということで、今私達はここで、20人か24で協議してます。施行規則の人数をベストな数字にして、1つの学校に1学年1学級とすると教員をすごい増やさなくてははいけな

い。そんな財政はどこにも市町村にない。全国的に45人だったわけです。担任が1人で45人も
いるっていうのはなかなか目が届かないところがあってそういうバランス的なことを考えた
ときに経験上、20から24だと集団活動もある程度できるだろうし他人の目も届きやすい。だか
ら38が限りなくベストという意味じゃないないと思う。38を超えての2クラスになります。こ
れを今度1学級38人の学校をたくさん作ってあげれば、要はお金の問題、1人を雇うだけで年
間相当かかるわけですから。財政上の問題となる。

【委員長】教職員定数から来てるんですよ。1年生の数を40人から35にしたのは、それだけ1年生の
生徒指導とか授業を手厚くやろうということから基準を減らしたと思います。

【委員】手厚く指導していくために減らしたということですね。手厚くというのは、その制度の人
数に対して教員数が多いってということですね。

【委員長】事務局。1学級当たりの人数で設定するか、学年で設定するか、これどちらでも良いで
すよね。何か支障がありますか。1学級当たり小学校の規模を考えなきゃいけない設定教
職員の定数とか根拠になるわけではないですし。

【事務局】検討委員会で小学校・中学校と同様な考え方で示していただくとありがたいと思いま
すが、中学校は1学級あたりではなくて、学年で考えた方が皆さんの意見をまとめやすいとか、
いろんなことをこの委員会の皆さんのご意見としていただくものですので、その辺は絶対1学
級あたりでお願いしますという気持ちではないです。

【委員】南中の1年生が現在、37人いて2クラスです。しかし、来年は1クラスになると聞いていま
す。これは、全体を鑑みての1クラスですか。

【委員長】先ほどからお話にある、施行規則。全国では40人、島根県では1年生35人・2年生以上3
8人という1学級の上限です。

【委員】今検討している、20人から24人というのが決まれば南中のクラスは2クラスになるのだ
か。

【委員長】1学級あたりの上限数は、もう決まってるんでだからあくまで2年生は39人いないと2ク
ラスにならない。

【委員】前回までの検討委員会で決めた、隠岐の子どもたちにどんな子に育ててほしいかという5
つの共通認識で皆さん持たれたとものを実現するには25人という人数が適当であり、できれば
クラスが2つあった方がいいよねっていう話ですね。

【委員長】小学校より中学校の方が1学級当たりの人数が多い方が望ましいというご意見がありま
した。そうすると学年で考えて1学級あたり25人以上ということで設定してもここでは学級が
2つを分けるとか、教職員が増えるとかそういうことは、町村の教育委員会ではできないので、

上限の設定は、県で決まってる。我々はあくまで隠岐の子供たちにどういう教育環境が望ましいかということで、人数を設定するわけですので1学級当たり25人以上が望ましいということで、この検討委員会では設定する方向でよろしいでしょうか？

【各委員】異論なし

【委員長】事務局次回以降の検討委員会の進め方について提案をお願いします。

【事務局】次回以降は「適正配置」について議論をお願いします。今日は資料をお配りしてありませんが、第1回目の会議の際にお渡しした会議資料を確認してください。前回の会議の流れが記載してあります。「適正配置」についての議論を進めるために、皆さんのご意見を伺いたいと思います。さらに、保護者や町民の意見も取り入れるために、アンケート調査を検討しています。ご意見や提案があれば教えてください

【副委員長】小中一貫教育や義務教育学校についての適正配置の考え方はどうでしょうか？また、アンケート調査についての無回答問題も考慮する必要があります。

【委員】前回、他の委員が言われたことがすごく心に響きました。本質的な問題は人口問題だと思っており、町がどういうふうを考えているのかを知りたいです。地域振興課などがどのようなまちづくりを目指しているのか、その方向性がないと10年後の検証もできません。これは教育委員会とも連動する重要な問題です。具体的に、現人口がどんどん減少している中で、まちづくりの方針が決まっていないと、教育の方針も連動しないと思います。例えば、西郷中心に集める政策であれば、郡部に手を加えるのは無駄に思えます。まち作りと学校配置は密接に関わっているのです。次回の会議でこの方向性を確認できたらと思いますが。

【事務局】町としては、郡部をなくす考えは持っていない。総合振興計画があり、次回の会議で、地域振興課から詳しい説明をお願いすることができます。

【委員長】次回は地域振興課の方に隠岐の島町の将来のまち作りについて、特に人口問題そういうことも含めてお話を聞かせていただくと、いうことですね。時間があれば適正配置についても、検討していきます。まずは小学校についての適正配置について検討するための資料（5年後、10年後の概要版）を作ってくださいということでもいいですか。

【委員】すいません。最初に言いそびれたんですが、今日の中学校の25人っていうのは何となく理由があったような気がしてます。皆さん言われたように、5人グループで、登録できるグループで話したりすれば、まとまった意見が出る、まとまった意見が出て全体の意見が出るっていうような形ができるよっていうのを具体例として、やっぱり部活考えた時の話とかも、小学校よりは多い方がいいんじゃないかっていうところがありました。これ前回の会議録見てて思うんですけど、小学校の20人以上の理由ってありましたかね。

【委員長】子供たちのために考えると、より多くの人数がいることで様々な経験ができるチャンス

が増えるという点で20人という数字が重要です。18人や22人という数字が適している場合もあるかもしれませんが、少なくとも4人や5人よりは20人近いほうが良いのは明白です。例えば、バスケット大会など、具体的な活動を考えると、学級内で話し合いや活動を行う際、グループ分けをしてそれぞれがテーマを調べ、発表することで多くの情報を共有することができます。これがグループのメリットです。また、小学校においても、人数が少ないときは工夫して活動を行います。より多くの活動をさせてあげるためにはある程度の人数が必要です。例えば、バスケットボール大会では小規模校で出られない学校があり、来年度からは中止という話もあります。こうした経験を考えると、小学校においても一定の人数がいることが重要です。

【委員】 前回の会議録を読み返して、何となく最初の5つのどういうふうに育てたいかっていうのは気持ちだとか、思いの部分なんであと相互関係もあったりしたので、納得もできるんですね。ただその20人という数字に関してその会議のときの記憶を思い出せば、何か5、10、15、20人という選択肢があった中で、何か20人が選ばれたみたいな感じで決まったような気がして今の話で何となく理解した感じになりましたが。

【委員長】 隠岐の子どもにどんな子に育ててほしいかを検討した後に、小学校の人数の話を検討したので、十分検討したとは言い難いかもしれませんね。目指す子供像で設定した自分の考えを自分の言葉で表現できるとか、自分も友達も大事にするとかですね。たくましさとか、これはですね、4年生5年生になってすぐ身につくもんじゃない。やっぱり小学校の入学時から、いろんな友達に触れながら成長していくのがより望ましい。ある程度人数がいた方がそういう子供たちに近づくんじゃないかというふうに思うわけです。中学生になって急に発言力が高まるそういうもんでもない。小さい頃から友達のいろんな考え方もの見方考え方に触れたり、小さいうちから喧嘩したり衝突したり、友達の気持ちをわかり合ったり、そういう経験を小さいときから大事にしていきたいなっていうのが、この20人を設定した根拠にもなってますよね。まだちょっとモヤモヤしてる場所はあるんだけど一応20人ということで、次回、適正な配置について考えていきたいと思えます。よろしいでしょうか？

【各委員】 意見なし。

【事務局】 次回の日程調整をさせていただきます。

次回会議日程を決定した。

令和6年10月25日 13時から 303会議室

【委員長】 それでは、これで第4回の検討委員会を終わります。どうもご苦労さまでした。

全てを終了した。